

心に残る文化財子供塾 大田市立五十猛小学校

1. 活動の概要

6月17日、大田市立五十猛小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。体験活動「古代食」ということで、予備知識となる「食材の変化」「料理法の変化」について県埋蔵文化財調査センターの職員から、話を聞きました。県内で見つかった遺跡と、そこからわかる昔の「食」にかかわる情報を学びました。県内で出土した土器について、実物を見たりさわったりして当時の暮らしにふれました。長い間使い古して煤だらけ、焦げだらけの土器を見て、「料理に使われてきた」ことを実感したようです。

体験用の炉は、畑の一部を手入れして先生方が整備したベースに、ブロックの炉を築きました。児童、先生方の蓄積をいかして順調に火がつき、古代米の炊飯開始。一隊は火の番、一隊は家庭科室に移動して、どんぐりの粉、クルミをベースにした「縄文クッキー」のネタ作り。クルミを自力で粉々にした班と最終的にミキサーに頼った班一個性と力の差がくっきり出た場面でした。炉で焼きましたが、向かってくる火炎に悪戦苦闘し、地面にこぼす人が続出します。成果品は「おいしい」？先生や友達に押し付け合っている姿がみられました…。

2. 活動の様子

1)「古代食」、学校周辺の遺跡について知る



「島根県一古い料理場」ってなんだ？



使い古して真っ黒になっているのに注目。

2)古代体験活動～はにわ作り～



「古代米」炊飯にとりくむ。

このとき摂氏31℃…💧



左は強健な赤米。

右はどんぐり粉のクッキー。

児童からは「マヨネーズの味」という真説が出されました。

(写真提供:五十猛小学校)

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・一番心に残っているのは縄文クッキーをかわらで焼いているとき。たき火で焼いているので火かげんがむずかしく、どんどん上手になっていて楽しかった。
- ・赤米、縄文クッキーはおなかにたまる。だから縄文時代の人はこれらを食べたのだとわかった。
- ・赤米はかたく、クッキーはばさばさしていた。
- ・味はあまりおいしくなかった。

2) 担任の先生から…

- ・ドングリクッキーや土器でのご飯作りは、感じる事、味わってみる事、心に残ることが多かったと思う。
- ・古代の衣装もあったが、暑くて着られなかった。次回挑戦したい。
- ・2時間の予定で3時間かかった。打ち合わせの時にどのぐらいの時間が必要かなどはっきりしているとよい。

3) 埋文センターから

「古代の人はおいしい思いをしていた」という感想が出なくて、安心しました。そこだけは誤解されたくない、と打ち合わせ前から思っていました。林先生が縄文クッキーのうち「肉のまざらない」タイプを選択したとき、内心「やったー」と思ったものです。当時の人がふれていた味に、かなり近いものになったと思います。

試食時間はすごくにぎやか。その中で児童の一人が「マヨネーズのような味」と言った一言に、不意打ちをくらった感じでした。酸味が含まれることを言い当てたのだと思います。ほかに酸味をもつ材料はないので、ドングリ粉そのものの酸味と考えていいでしょう。コロナ禍が挟まったこともあり、職員にとっても古代食は久しぶりのチャレンジでしたが、忘れかけていた味を思い出す、にとどまらない貴重な経験となりました。

授業の中で自分の舌で感じたドングリクッキーの味。児童のみなさんが昔の人の生活を想像するときの確かな足場にきつとなると思います。私自身にとってもそうです。